

平成 29 年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立一関清明支援学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

一関地域は、過去にカスリン台風やアイオン台風による大水害を経験している。その後も台風などの大雨による水害に幾度となく襲われている地域である。また、岩手宮城内陸地震や東日本大震災でも大きな被害を受けている。

地域の東側には、宮城・秋田・岩手の3県にまたがる栗駒山があり、水蒸気爆発やマグマ爆発が今後予想される地域でもある。

これら一関地区の実情と、様々な障がいのある児童生徒や広域から通学している本校の実情を踏まえ、次のような学習を進めた。

- ① ベルマーク収集活動をとおした支援や避難所で自分ができる仕事を知ること、他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践する態度を養う。
- ② 震災津波で被害を受けた地域の復旧・復興の状況を知るとともに、松の植林をとおして、生き生きしたまちづくりにかかわる。
- ③ あいぽーとなどの防災学習施設の見学をとおし、一関地域で過去におきた自然災害や、自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について知る。
- ④ 県防災センターや東京広域防災公園など防災学習施設の見学や避難訓練をとおし、危機を予測（回避）し、災害に直面した際の自己の体の守り方を知る。
- ⑤ 非常食の作り方を体験し、非常時に生き抜くための技能を知る。
- ⑥ 自宅からの避難場所や、東日本大震災の被害とその対策などを家庭で話し合い、非常時の備えについて知る。
- ⑦ 家庭や地域住民との防災学習の共有の在り方を探る。
- ⑧ 一斉メールを活用し、保護者との情報共有を図り、連携して避難訓練や引き渡し訓練を実施する。
- ⑨ 災害伝言ダイヤル 171、災害用伝言板（web171）」の体験利用を行い、保護者と災害時の情報を共有する。
- ⑩ スクールバス乗車時の災害に備え、避難訓練を実施する。

II 取組の概要

(1) 炊き出し訓練

ア 期日：6月6日（火）

イ 対象：（本校舎、千厩分教室それぞれで実施）

(ア) 本校舎中学部（生徒20名・職員23名・講師16名・市職員2名）

(イ) 千厩分教室中学部（生徒7名・職員5名・講師3名）

ウ 講師：日本赤十字社岩手県支部一関赤十字奉仕団

エ 内容

(ア) グループ学習「ライフラインが止まったら？」

(イ) 炊き出し訓練「ハイゼックスを使ったご飯作り」

(ウ) 私たちにもできるボランティア「気持ちが落ち着くマッサージ」

(2) 一斉メールを活用した避難訓練と引き渡し訓練

ア 期日：6月6日（火）

イ 対象：幼小学部（幼児児童13名）、中学部（生徒19名）、高等部（生徒83名）、職員77名、保護者43名

ウ 内容：大地震による通行不能箇所を避けての避難。第一避難場所から第二避難場所への移動。引き渡し訓練の一斉メールの配信。保護者への引き渡し。

(3) 東京臨海広域防災公園見学

ア 期日：6月22日（木）

イ 対象：中学部3年（生徒10名、職員6名）

ウ 内容：タブレットを使い、地震発生後の72時間生存力をつける学習ツアー体験や防災トイレや段ボールハウスなど防災グッズの学習

(4) 道の駅「平泉」見学

ア 期日：7月5日（水）

イ 対象：中学部1年C・D組（生徒5名、職員4名）

ウ 内容：災害時に備えた様々な設備や機能についての学習。災害用トイレや防災備蓄倉庫の見学

(5) 北上川学習交流館「あいぽーと」見学

ア 期日：7月5日（水）

イ 対象：中学部1年C・D組（生徒5名、職員4名）

- ウ 内容：過去の台風被害や一関の水害対策についての学習。集中管理センターの見学等治水学習
- (6) 県立総合防災センター見学
 - ア 期日：7月11日（火）
 - イ 対象：中学部2年A・C組（生徒7名、職員4名）
 - ウ 内容：暗闇・けむり・地震・放水体験
- (7) 生徒・保護者を対象とした防災学習の発表会
 - ア 期日：7月24日（月）
 - イ 対象：中学部生徒21名・職員20名・保護者10名
 - ウ 内容：校外学習や修学旅行での学習成果の発表
- (8) ベルマーク収集活動
 - ア 期間：8月19日～2月5日
 - イ 対象：小学部児童会・中学部生活委員会
 - ウ 内容：全校集会で収集の協力を呼びかけ、保護者宛文書を配付。玄関先にBOXを設置し、収集。分別は、地域ボランティアの協力を得ながら実施。収集したベルマークを、ベルマーク教育助成財団をとおして、東日本大震災被災校に寄付
- (9) 家族と防災学習①
 - ア 期日：夏季休業中
 - イ 対象：中学部生徒・保護者25家族
 - ウ テーマ：避難先を確認しておこう。
 - エ 内容：災害にあった場所に応じ、避難する場所や対応を確認。
- (10) 被災地施設の清掃活動
 - ア 期日：8月30日（水）
 - イ 対象：本校舎中学部2年C組生徒5名、職員2名、千厩分教室中学部7名、職員5名
 - ウ 体験先：陸前高田市復興まちづくり情報館
 - エ 内容：「高田松原の再生を目指す高田松原を守る会の活動」についての学習、復興まちづくり情報館内の清掃、タピック45・奇跡の一本松・市内の見学
- (11) 災害伝言ダイヤル171、災害用伝言板（web171）の体験利用による災害時の情報共有。
 - ア 期日：9月1日（金）
 - イ 対象：全校保護者・教職員、中学部生徒
 - ウ 内容：災害伝言ダイヤル171、災害用伝言板（web171）の体験利用
- (12) 学校へ行こう週間を利用した地区住民への学習成果発表
 - ア 期間：9月11日（月）～9月15日（金）
 - イ 参加：近隣地区住民208名

- ウ 内容：防災学習の成果のポスター発表
- (13) スクールバス避難訓練
 - ア 期日：9月28日（水）
 - イ 対象：児童生徒22名・職員4名
 - ウ 内容：一次待避、学校とのメールによる連絡、一斉メールによる教職員・保護者への連絡
- (14) 創立10周年記念作品展での地区住民への学習成果発表
 - ア 期間：10月2日（月）～10月4日（水）
 - イ 参加：近隣地区住民
 - ウ 内容：防災学習の成果のポスター発表
- (15) 生徒・保護者を対象とした防災学習の発表会
 - ア 期日：11月2日（月）
 - イ 対象：中学部生徒21名・職員20名・保護者10名
 - ウ 内容：校外学習での学習成果の発表
- (16) 家族と防災学習②
 - ア 期日：冬季休業中
 - イ 対象：中学部生徒・保護者25家族
 - ウ テーマ：東日本大震災のことを家族に聞こう
 - エ 内容：被害とその対策

III 取組の成果と課題

1 成果

(1) 生徒における成果

災害時には、地域の中で自分にもできる役割があることが分かり、「他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで行おう」という気持ちをもつことができた。また、日頃からの備えが大切であることも実感できた。

(2) 教師における成果

中学部3年間の系統的な学習内容、発達段階に応じた内容について検討し、実践することができた。

(3) 保護者における成果

親子で防災について話題にすることが多くなり、家庭での備えにつながってきている。

2 課題

生徒の実態が多様となっており、毎年学習内容を柔軟に検討していくことが必要である。また、知的障害学級における教科学習との関連について検討していく必要がある。防災学習の成果を保護者や地域住民とより一層共有化を図るために、情報発信の在り方を見直していきたい。